

目次

I. はじめに	1
1 地域課題の解決には、社会貢献に取り組む人の存在が欠かせません	
2 地域のボランティア活動に参加する若者を増やしたい	
3 若者とボランティア	
4 ボランティアに対する若者の状況や意識を知る	
5 若者が共感し「参加したい」「参加してよかった」と思うボランティア活動にするための工夫	
6 社会貢献活動を持続可能なものするために、ご協力をお願いします	
II. 若者がボランティア活動に参加する動機、活動を選ぶ時に重視すること	4
1 自分の成長につながるか？学びがあるか？	
2 楽しいか？やりがいがあるか？	
3 人と交流できるか？	
4 気軽に参加できるか？	
5 自分に合っているか？	
III. 若者が共感し「参加したい」「参加してよかった」と思う活動にするための工夫	7
1 活動内容を「知ってもらう」ための工夫	7
① 群馬県のボランティアマッチングサイト「ボラスルン」を活用します	
② 活動の目的、団体のビジョン、活動の価値などを整理して伝えます	
③ 誰を対象に何をやる活動か、活動内容を分かりやすく具体的に伝えます	
④ どのような人が活動しているかを伝えます	
⑤ 活動に参加して得られる学び、スキル、経験、活動の楽しさ、やりがいなどを伝えます	
⑥ 参加者自ら、何を感じたのか、何が身についたのかを発信してもらいます	
⑦ 活動の様子を写真や動画などの画像付きで発信します	
⑧ 見た人に親近感を持ってもらえるように伝えます	
⑨ ボランティア説明会やイベントなどを開催し、団体の活動を知ってもらう機会をつくれます	
⑩ 気軽にお試しで参加できる短時間の活動を企画し参加してもらいます	
⑪ 大学のボランティアセンター等と連携します	
⑫ 地域にあるボランティアセンター等と連携します	
⑬ 身近な人から直接話を聞く機会を設けます	
⑭ 日々の活動記録等を SNS 等で発信します	
⑮ 多くの若者とつながっている人に参加してもらい、SNS への投稿をお願いします	

⑯ ポスターやチラシを SNS 等と組み合わせて活用します。

2 活動を「企画する」ときの工夫・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

- ① 初めてでも参加しやすい活動を企画します
- ② 単発で参加できる活動を企画します
- ③ 半日程度で終了する活動にします
- ④ 土日・祝日や長期休暇中に参加できる活動にします
- ⑤ 集合時間は、無理のない時間に設定します
- ⑥ 参加しやすい場所でできる活動を企画します
- ⑦ 参加者の主体性を大切にします
- ⑧ 参加者が自分で工夫して活動できる部分を意識して用意します
- ⑨ 参加者を単なる労働力して当てにしない
- ⑩ ボランティアに参加してもらいたい理由を個別にきちんと伝えます
- ⑪ 参加者同士が交流する機会を意識してつくります
- ⑫ 参加者をサポートする体制を整えます

3 「参加者を募集する」ときの工夫・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

- ① SNS やフォームなど、若者が利用しやすいツールを使って募集します
- ② ボランティア活動の名称は、内容が端的に分かるものにします
- ③ いつ行うのかを明示します
- ④ どこで行うのか、活動場所を分かりやすく示します
- ⑤ 活動場所と集合場所が違う場合は、集合場所も同様に示します
- ⑥ 最寄りの駅やバス停などを示します
- ⑦ 駐車場の有無を示します
- ⑧ 誰を対象に何をする活動か、活動内容を分かりやすく具体的に伝えます
- ⑨ ボランティアに何をしてもらいたいのか、明確に示します
- ⑩ どのような流れで活動を行うのか、具体的に示します
- ⑪ どのような人を募集しているのか、具体的に示します
- ⑫ 募集人数を示します
- ⑬ 持ち物や服装を示します
- ⑭ 交通費や食事の支給がある場合は、具体的に明記します
- ⑮ 募集の締め切りを明記します
- ⑯ 団体にボランティア保険に加入している場合は、明記します
- ⑰ 主催者情報とお問合せ先（申込先）を示します

4 活動日「前」にする工夫・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

- ① ボランティア主催者と参加者で顔合わせを行います
- ② 研修や説明会を行います
- ③ 活動当日の詳細を連絡します
- ④ ボランティア保険等への加入を勧めます

5 活動日「当日」にする工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

- ① 今日やることや全員で目指すゴールなどをきちんと伝えます
- ② 何のためにその活動するのか、参加者に感じてもらうことを意識します
- ③ 主催者スタッフやボランティア参加者で自己紹介します
- ④ 参加者同士で、今の気持ちなどを共有します
- ⑤ 主催者スタッフは名札をつけ、参加者が名前を把握できるようにします
- ⑥ 初めて参加した人が孤立しないように工夫します
- ⑦ 人との交流が増えるように工夫します
- ⑧ ボランティア受け入れ担当を設定して参加者に寄り添います。
- ⑨ 参加者が困っていないか、意識して見守ります
- ⑩ 参加者が工夫していることを見つけ、意識して声をかけます
- ⑪ 活動に参加する目的や目標を、参加者自身の言葉で設定してもらいます
- ⑫ 参加者に明確な役割が分担されるようにします
- ⑬ 参加者の知識や経験を生かせる役割を与えます
- ⑭ 参加した目的や目標を達成できる役割を提案します
- ⑮ OJTになるような、その場での説明や解説をします。
- ⑯ 募集する際に示した作業の範囲で活動してもらいます
- ⑰ 休憩時間を設けます
- ⑱ 終了（解散）時間を守ります
- ⑲ 活動終了後に振り返りを行います
- ⑳ 活動に対する疑問や改善点を聞き、答え（応え）ます

6 活動日「後」にする工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

- ① ボランティア同士がつながり続けられるような工夫をします
- ② 今後につなげるための情報を提供します
- ③ 参加者にお礼メッセージを送ります
- ④ 活動記録等を SNS 等に共有します

7 他にもこんな工夫があります・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

資料

資料1 ボランティア活動に関するアンケート結果

資料2 若者の声